

6 番 松尾陽輔議員

松尾陽輔議員／ただいま、議長より登壇の許可をいただきましたので、6番、公明党の松尾陽輔議員の一般質問をただいまより始めさせていただきます。

第185回、臨時国会が閉会しました。

特定秘密保護法で始まり、特定秘密臨時保護法で終わった臨時国会ではなかったかと思えます。

そういった中で、その他の重要法案を見ると、国土強靱化基本法、がん登録推進法、改正生活保護法、さらには自立支援法等が成立した。

また、経済対策規模は5.5兆円、家計と景気を後押しする経済対策の5.5兆円の効果を大いに期待するところです。

中身的には子育て支援策として、消費税引き下げ、引き上げの負担緩和として児童手当に上乗せしています。

中小企業対策として設備投資の意欲に答える物づくり補助金の拡充が予定をされている。

中層企業の競争力を上昇させ、物づくり補助金、制作兼開発、さらには設備投資にかかる費用の3分の2を国が補助するものです。

住宅活性化対策については、住まい給付金の創設、修工、リフォームに補助金等を与える物です。

具体的には、消費税の引き上げで、住宅購入を手控えるなど、上向いた景気の腰折りを防ぐために、2014年4月、要は来年から住まい給付金が創設をされます。

耐震、省エネ改修などリフォームを行う場合、1戸あたり100万を上限に、費用の3分の1を補助する制度が今回、予算を計上化する中で、数多くの対策が盛り込まれています。

家庭、景気の後押しとして、積極的な活用と取り組みをぜひ、お願いをしたいと思っています。

それでは、一般質問に入るらせていただきますが、今回は、まず1点目に教育行政について、2つ目に、災害対策基本法の改正を受けて、3つめに、町づくりについて。

質問をしていきます。

具体的には、教育行政については、78円の命、ご存知でしょうか。

この話をしていきます。

2つめには、自律的学校経営等について私のほうから提案をしたいと思います。

3つめは反転授業。

今、一般質問でほとんどの議員が反転授業について質問しています。

2つめに災害対策基本法の改正を受けて要援護者に対する現状と課題。

さらに、今後の具体的な対応について、個人情報保護法の取り扱いが変わりましたので、それに加えてどういう対応をされるのか確認をしたいと思います。

最後に町づくりについて、新幹線のフリーゲージ導入についての課題。

さらには、健康マイレージと心の体温計ということで提案をさせていただきます。
最後に、周辺部の活性化と地域力ということで、質問を順次しますので、よろしくお願いします。

教育行政について話をします。

動物愛護及び、管理に関する法律が制定されました。

昨年8月、動物愛護、管理法の一部が改訂され、今年9月、同法が施行されました。

これはきのう、松尾初秋議員から詳しい説明と答弁がありましたが、この改正のポイントは、犬、猫等の動物殺処分ゼロに向けた改正であります。

動物を最後まで飼う責任を明確化し、引き取りを拒む文言を明記し、殺処分がなくなることを目指しているということにます。

殺処分がなくなることを目指して、ということになっておりますが、2011年、全国できのうも話がありましたが、22万匹の犬・猫等が捨てられ、約8割、18万匹が殺処分。

犬が5万、猫が13万匹ということで、殺処分されているようです。

当市の引き取り、殺処分頭数ということで質問しておりましたが、きのうの答弁の中で、佐賀県では2204頭が殺処分され、杵藤地区管内での引き取りは、716頭という答弁をいただいた。

その中で今回の改正で、自治体が引き取りを拒む権限がある一方、不法投棄等が懸念されています。

殺処分ゼロに向けた、具体的な自治体の取り組みについて、自治体だけでは、限界が当然あるわけですから、そう言った中で、今後殺処分ゼロに向けた啓発運動の計画は、どのようにされていかれるのか。

また、施行がされてまだ2、3カ月、ということでしょうけど、今後の計画について、まず冒頭にお尋ねさせていただきます。

よろしくお願いいたします。

議長／森まちづくり部長

森まちづくり部長／本市では、猫の避妊助成に対する補助金を平成23年度から行っておりまして、適正飼育の推進を図ってきました。

今回の法の改正にともない、広報武雄の11月に掲載をして、周知したところです。

御指摘の通り、犬、猫の殺処分の数を減らしていくには、飼い主が責任をもって最後まで飼うということが不可欠であり、今後も、広報や市役所便り等、さまざまな機会を捉えて、動物愛護や飼い主が、動物愛護等の啓発に進めていきたいと思っております。

Facebookによって、犬猫の譲渡情報等を発信をしまして、そういった機会を利用したいと思っております。

議長／樋渡市長

樋渡市長／きのう、松尾初秋議員さんから話がありました。

これは本当に大きな問題だということは、認識しています。

その中で熊本市ですよね。

きのうも松尾初秋議員さんから御指摘ありましたが、ここは政令都市ですので、殺処分
の関係や、いろんなことは自分たちの市で先験的にできるということになっています。

武雄市は県の施設の中で、武雄市が側面的に協力する立場になります。

その中で私どもが何ができるかというと、里親制度があるんですね。

そういうのを広く周知したり、あるいは実際の里親になった方を私たちの広報で紹介したり。

まだまだほとんど、さっきの F a c e b o o k の話でていますが、僕が知らないくらいですから、それがちゃんと届くようにしていきたいと思いますので、来年の4月の2月号の
時点で、この特集を組みたいと思っています。

その中で、里親制度であるとか、動物愛護の大切さをちゃんとわかるように、横文字は使
わずにやっていきたい、このように思っています。

2月号に向けて、これから一生懸命頑張っていきたいと思っています。

議長／6番 松尾陽輔議員

松尾陽輔議員／ぜひ、よろしくお願いをしておきたいと思います。

広報、特に来年の2月に。

犬猫等の殺処分ゼロに向けた具体的な私なりの取り組み策として、児童文学作家、今西乃
子さん。

「小さな命の写真展」ということで、出会う機会がありました。

この企画を、ぜひ図書館等、あるいは学校等で市民参画実施していただければ、啓発にも
つながるんじゃないかということ。

小さな命の写真展、ということでのっております。

殺処分前の…

私もコメントさせていただきましたが、目が皆さんに何かを訴えているような引き取り手
を待っているのか、それとも何かを訴えている目線が、しんと胸を打つような写真で
紹介をさせていただきました。

これは私が家で、家族で飼っているハムスターですよ。

ハムスターは、寿命が2年ですよ。2年。

長くて3年しか生きられないというのが、このハムスターの寿命ですが、愛着をもって、
家族で育てております。

そういった中で、先ほど言いました、小さな命の写真展の企画。
市民参加で、ぜひこの中で、殺処分ゼロということを、注目度のある武雄市から、ぜひとも市長、発信してほしいと思いますが、いかがでしょうか。

議長／樋渡市長

樋渡市長／これはやっぱり、胸を打ちますね。
やっぱり、殺処分前の、これなんかやっぱりちょっと。
これを見るだけで訴えかけるものがあって。
ぜひ、教育委員会の…
教育委員会でもせんでもよかって実は言ってたんですよ。
これ見たら、したほうがいいですね。
教育委員会と協議をして、学校でするっていうのは、1つの案と、もう1つはこれも教育委員会の施設になりますが、図書館の企画蘭学展示室で行うべき価値があると私自身は思っていますので、教育委員会と、CCC と、指定管理者のカルチュア・コンビニエンス・クラブときちんと話をして、これは実現に向けてやっていきたいというふうに思います。
やっぱり、百聞は一見にしかずだなと思いました。
これを多くの市民の皆さんたちが見れば、必ずこれは感ずるところ、わかるところがあると思いますので、私自身も積極的にはたらきかけたいと考えております。
これぜひ、可能なら、市役所の2階の市民ホールの所でも、これできるとしますので、いろんな所でやっていければいいなとこのように思っています。

議長／6番 松尾陽輔議員

松尾陽輔議員／ぜひ、よろしく願いをしておきたいと思います。
何かを呼びかけている目つきですから。
よろしくお願いします。
そういった中で、78円の命、ということで。
これは、愛知県豊橋市の小学校6年生、今は中学1年生ですが、谷山千華さんの作文。
大会での最優秀作品で、78円の命を紹介させてもらうと。
「近所に捨て猫がいる。そのネコは目がくりっとして、しっぽがくるっと曲がっている。
かわいい声をあげていつも私についてくる。「キキ」と名付けてかわいがった。
2年たった頃にうれしい出来事があった。赤ちゃんを産んだのだ。
でも「キキ」は捨て猫だったので、行き場所がない子ネコたちを近所の鈴木さんが預かってくれた。毎日のように子ネコを見に行って、まるで自分の飼いネコのようにかわいがった。

ある日、突然子ネコの姿が見えなくなった。

鈴木さんに尋ねてみると「〇〇センターに連れて行ったよ」とうつむきながら言った。

次の日、学校でこの事を友達に話したら「保健所だろう？それ殺されちゃうよ」といった。

飼い主が見つからなかった時には、死が待っている。10匹単位で小さな穴に押し込められ、二酸化炭素が送り込まれる。数分、もがき苦しみ死んだ後はゴミのようにすぐ焼かれてしまうのだ。

動物の処分、一匹につき「78円」。

動物の命の価値が、たったの78円でしかないように思えて胸が張り裂けそうになった。

キキがずっと鳴いている。大きな声で鳴いている。

命を守るのは私の考えるほど簡単なことではない。かわいいだけで動物は育てられない。

生き物を飼うことは一つの命にきちんと責任を持つことだ。

最後まで育ててやれるという自信がなければ飼ってはいけない事を学んだ。」

という、素晴らしい小学6年生のときに書かれた、78円の命。

この作文に触れたときに、小さな命の大切さ、命の尊さを、子どもたち、大人たちに問題提起を小学校6年生が投げかけている作文だと。

この場をお借りして紹介させていただきました。

そういった中で、教育改革が進む中で、道徳教育が大事じゃないかと、あちこちで聞かれる中で、当市の道徳教育の教材を含めて、現状の道徳教育がどう進められておるのか、まずは確認をさせていただきます。

御答弁をお願いします。

議長／浦郷教育長

浦郷教育長／命の尊厳に関わる非常に重い内容のあとでございます。

確かに、子どもたちが命について学ぶ、考える機会というのは非常に少ないのではないかとすることは感じております。

極端に言いますと、漫画等を見た子どもの中には、また死んだら生き返ると答える子どもさえ報道されているのは、全国的な状況です。

そういう中で、佐世保市等での死亡事故等があったのを契機に、それぞれの市町で、命に関する取り組みがされて、武雄市でも4年になりますが、心といのちの健康を育むだけおプランというのをしだいに蓄積をしていって、命に関わる授業に取り組んでいるところでございます。

議長／樋渡市長

樋渡市長／これ私自身の経験ですが、一番わからなかったのが、道徳の授業で。

なんば先生いいよんさっとかなと思って。

こうやって成長して、いろんな小中学校に抜き打ちでいくじゃないですか。

時間があるときは、授業を聞いているんです、1 番後ろで。

1 番子どもたちの反応が悪いのが道徳。

本当に先生が頑張っているのがわかるんですが、なかなか伝わってこないんです。

道徳を教える難しさだと思います。

ですので、ここは今の自民党とか文科省が言っていることはすごく正しいと思っていて、子どもたちにわかるようにするというのが、すごく道徳の場合大事だと思っています。

先ほどの、先生が立派なことを言うのは良いですが、78 円の命を読むだけで、その効果、あるいはさっきの殺処分の手前のワンちゃんの姿を見せる。

あと、松尾陽輔議員が飼っているハムスターを見せる。

あれを見せるだけで、いろいろ言うよりも、心を掴むと思うので、本当今は見直すべき時期にあると思うんです。

私も学校現場にお邪魔をして思ったんで、そういういろんなバックアップが必要だと思いますし、道徳教育というのは、学校の先生だけでなく、地域の皆さん、大人の皆さんたちの力も絶対借りないといけないと思っています。

地域ぐるみで道徳の授業をしっかりと考える時期に来ているんだろうなと思っています。

議長／6 番 松尾陽輔議員

松尾陽輔議員／正に道徳教育というのは、学校教育だけではできませんし、またそういった中で家庭、また地域で子どもたち、大人の背中を見て育ったわれわれですから、いろんな所で、身近なことを取り上げながら子どもたちに、という思いの中で、ぜひ命の尊さ、78 円の命、いろんな形で全国的に反響を呼んで、身近な部分の中で、道徳教育に活用をしている状況で、ぜひこういった形の、ぜひ教育現場で使っていただきたいと思いますけれども、教育長いかがでしょうか。

議長／浦郷教育長

浦郷教育長／たくさん質問をされていますので、簡単に言いますが、司馬遼太郎さんが6年生の教材に、1つの小説を書くより大変だったということで書かれた、「21世紀に生きる君たちへ」その中に、他人の痛みを感じることを、やさしさ、根っこは同じだが、これは訓練をしなければ身につかないということがございます。

そして、その命等に関しては、さっきの話ではありませんが、年代に合った学ぶ機会を確保していきたいと思っています。

議長／6 番 松尾陽輔議員

松尾陽輔議員／ぜひよろしく願いをしておきたいと思います。

次に、自律的学校経営についてお尋ねさせていただきます。

先月の 27 日、中央教育審議会、中教審の答申が出ました。

また、先ほど市長も若干話をされましたが、地方教育行政の最終責任者は、教育委員会から首長に移すということです。

今頃なぜ、このような答申案を出したのかと。

平和、教育、文化の公明党。

人間教育の推進役として、教育権の独立ですよ。

要は四権分立。

首長は、われわれもそうですが、政治家であり、政治的中立性を制度として担保すべきと私自信考えております。

その中で、文科省が音頭をとり続けてきた官僚主義型教育というか、もうそろそろ、この教育制度の在り方には限界がきているのではないかということで、今回の武雄市の取り組みながら感じたところです。

今後、教育制度をどのように構築していくかが課題と考えています。

そういった中での今回の、首長に権限をとという答申の中で、教育基本法、教育行政第 16 条を見てみると、教育行政は国と地方公共団体との適切な役割分担、および相互の協力のもと、公平かつ適正に行われなければならないと明記されています。

私なりに解釈すると、教育行政は首長と教育委員会との適切な役割分担、および相互の協力のもと、公正かつ適正に行われなければならないと、私なりに置き換えながら解釈しました。

現行制度で地方教育行政は十分可能であり機能していると私なりに考えながら、今後の中教審の、あした、あさってですか。答申を出すということで聞いたところでございますけれども、この答申に対しての、教育長の考えをひとまず、お伺いしたいと思います。

御答弁をお願いします。

議長／浦郷教育長

浦郷教育長／大変タイムリーで重大な質問でございました。

3 つだけ言います。

1 つは平成 8 年、10 年ごろから、教育改革が中教審等で言われまして、いろんな面で変わりました。

しかし本当の教育改革は、何をどうすればいいのかとは、いろんな課題があると思います。

特にそれは、ずっと私自身教職にあって積み重ねてきたものでは追いつかない時代の流れ

があるようです。

そういう面で今取り組んでいることも、そういうことにあたると思います。

2つめは、先ほど言われました中立性や公平性、そして持続性。

これは自身の立場を考えても、次の人にも続けていけるような持続性は当然求められます。

3つめは地方分権という考えについては、勉強不足はありますが、いろいろやりながら、武雄市だからできるということも感じてまいりました。

そういう面で、これまでの縦の流れと言いますか、体制的な流れの中でも、この武雄市ならできることはあると思っていますし、公明党さんが出されている教育政策についても、ここに出されているのも、ほぼ同じような考えを持っています。

議長／6番 松尾陽輔議員

松尾陽輔議員／わかりました。

そういった中で市長も答弁されたが、今一度、中教審の答申についてのお考えを、手短にお尋ねいたします。

議長／樋渡市長。

樋渡市長／私は、この答申には大反対です。

これを国が一律に押しつけるのは、地方分権あるいは地域主権の主旨から反していると思いますし、なかんずく、公正性とか中立性の前に、教育というのは政治から分離独立しないといけないと思います。

ただし、まったく無責任でいいか、それは違います。

今の現行制度でも、予算の編成権というものすごい強大な権限があります。

そして、私には一般質問等での強大な発言権があります。

もうそれで十分です。

今、なぎなたしか必要がないときに、これを見ていると、バズーカ砲が来るようなもの。

使いません、要りません。

それよりも、私はむしろ、学校現場に、学校長に、予算編成権とかを与える。

与えるといったら上から目線で恐縮ですが、それが学校間の競争になると思うので、これは反対。

ただし、自治体によっては首長の独裁的な権限があったほうがいいという所もあると思うんです。

例えば、大津とか大阪市はそれでいいと思います。

その場合は、山口等議員にも答えたとおり、選択性にしてほしいと思っていますので、ぜひ公明党の皆さんには、ここは本当に頑張って。

もうね、特定秘密法案でだいぶ公明党さんは支持が下がっているんで、ここはぜひ頑張っ
てほしいと思っています。

議長／6 番 松尾陽輔議員

松尾陽輔議員／私も四権分立というか、立場で教育権を守っていきたいと思います。

そういった中で、学校現場での適切な役割分担ということで、自律的な学校経営とはと話を
を進めさせていただきますが、自律的学校経営とはということで、10 の答えに対して、算
式で $3 + 7 = 10$ ですね。

$\bigcirc + \bigcirc = 10$ という考え方もある。

ここでの自立は、 $\bigcirc + \bigcirc = 10$ 。

例えば $1 + 9$ も 10、 $8 + 2$ も 10 ですね。

そういった感じで考え方が 20 とおり、10 の答えに対してあると。

そういった中で、各学校で考えた算式、答えの出し方が、特色ある学校づくり、自律的学
校経営につながるのではないかとということ。

答えの出し方は学校現場に任せて、教育委員会の $3 + 7 = 10$ ではなく、学校現場で特色あ
る、 $1 + 9 = 10$ 、 $8 + 2 = 10$ などぜひ、考えを取り入れていただきたい。

具体的に県の春日市(?)教育委員会が予算の執行権と編成権を学校に移譲しております。

移譲の範囲は、教育委員会事務局が予算執行と編成をしていた。

移譲することによって、教育委員会事務局の大幅な事務量の軽減と学校現場のコスト意識
の向上と。

2 つめに、総額と内訳を計上、今、武雄市もやっているが、学校予算、資金を等額配当式
にすることで、特色ある学校づくりにつながる。

また、事務の軽減と意識改革につながった。

一元執行による、備品の現場での購入が迅速になる。

例えば、学校で何かを購入したいとなったときに、最終的には、4 月に発注したのは、夏
休み過ぎにしか来なかったという状況ですね。

こういう状況を改善するために、学校の裁量権、予算の執行等、予算の編成権を学校予算
総額制を武雄に導入してほしい。

そういった中で、学校の特色づくりができるのでは。

話をさせていただきますが、学校の編成権を学校現場に落としていただきたいというこ
とに、ご見解をお尋ねします。

議長／暫時、休憩いたします。

* 休憩中(14:37) *

議長／休憩前に引き続き、会議を続けます。

ただいまのはモニタに不具合があったので、休憩を入れました。

答弁を求めます。

樋渡市長

樋渡市長／私は議員の意見に半分賛成、半分反対です。

一定予算の枠内で、各学校が迅速にするのは、賛成ですが、全部、学校に任せると、例えば、タブレットの配付ができない。

大きな政策の部分は、首長の編成権です。

ですが、こまこまとした話はそれは学校でしてくださいとして、仕切り分けのはなしだと思います。

例えば、荒川区の西川区長さんから伺ったのは、あそこは実際の予算に加えて、各学校長に 100 万円渡している。

そこで、備品とか必要なときに、学校長の権限で断続的に備品購入ができる。

そういうことができるので、そっちが良いと思っています。

それを含めて、検討していきたいと思っています。

そこは教育委員会と協議をしたいと思っていますし、おかげさまで税収がのびているので、そういう形に活用ができればいいなど。

今のままだと、なんのための学校長か分からない。

そこは学校長の責任と権限を明確化すべきだと思っているので教育委員会で議論をたたき直していただきたいと思います。

議長／6 番 松尾陽輔議員

松尾陽輔議員／総額と内訳を、議会事務局がやる中で、学校現場に移譲することで、事務局等の事務量の軽減につながるし、意識改革につながると、ぜひとも学校の裁量権の拡充を、校長に権限を任せていけば、特色ある学校づくり、今まで教育予算、教材にしか使えなかった部分が、今年度は英語などに使えていけると。

学校現場で予算の内訳を取られるような、予算、編成の移譲をぜひとも、教育委員会等、もう一度、現場で考えていただければよりよい環境づくりができるので、是非ともよろしく願いしながら、予算の要求の時期と事業案、検討の前倒しの話をさせておりました。

要は、予算要求が、春日市(?)の教育委員会の状況は、当初予算案が毎年 2 月、また新規予算案の検討も毎年 2 月、という状況をなんとか前倒しすることによって、いろいろな提案の検討ができると、いろいろなメリットが出てきますから、ぜひ、そういう形で、予算要求は、あるいは新規事業案の検討の前倒しを検討しながら、よりよい学校づくりの体制作

りをかためていただきたいと思います。

今の状況、予算要求がいつ頃されているのか、新規事業案をどのような形で引き継ぎされているのか、それをなんとか前倒しにすることによって、教育委員会の関わりがよりよく学校経営に反映されるのではないかと。

ご答弁、よろしくお願いします。

議長／樋渡市長

樋渡市長／私はこれについては反対です。

というのも、予算は約1年に1回が原則です。

これを全体として、うちは教育だけやっているわけじゃないんです。

福祉や街づくり、子育てという並びの話でやってますので、これを3月議会できちんと本予算として審議してご議決を賜るのが、すじだと思っています。

私たちも、実際に緊急避難的に必要なものについては、臨時議会、あるいは追加で柔軟にやっています。

これで良いと思います。

私がいいたいのは、こと細かに、今査定できまっているのは、先ほど申し上げましたとおり、一定の予算の枠内で学校長に判断してもらうことについては、それはそのとおりだと思いますので、それについては、しません。

議長／6番 松尾陽輔議員

松尾陽輔議員／いろんな考え方があるかと思います。

学校現場の校長の判断という部分の中で、検討できる範囲でしていただければと思いますので、よろしくお願い申し上げながら、次の質問に移らせていただきますが、教育委員会。

その中で、いろんな関わりが重要になってくると思います。

今の教育委員の方々の待遇改善をぜひさせていただきながら、もっと学校現場に入っただいて、いろいろな話をしていただく中で、教育委員の方々の待遇改善をして、体制づくりをお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

議長／樋渡市長

市長／これは、賛成です。

教育委員会って、お給料、いくら知ってます？

月。

5～6万ですよ。

手取りになると、確か5万だったと思います。

しかも兼業がなかなかできないといつてとき、これは、さすがにやっぱ、気の毒すぎますよね。

ですので、ほとんど教育委員会が、フルタイムということを考えたときに、その処遇の改善は絶対する必要があるだろうと。

今の教育委員さん。

例えば、女性も2人いらっしゃいますし、本当に感謝しています。

雀の涙以下の報酬で、一生懸命やったださっていることには感謝したいですが、いつまでも善意に甘えることはできませんので、これはどこかのタイミングで、いろいろな、どこまで教育委員会の権限が及ぶかも含めて、1回精査をしたいと思います。

そういう意味でいうと、議員さんの給料も安すぎると思います。

人によりけりですが。

それも含めてね。

うちの職員の給料も安いんです。

これも人によりけりですけども。

これで一般的にいうと、総人件費の枠内で、今度ガラガラポンして見直すべき必要があるだろうと思っています。

教育委員会のお給料とか、議員さんの報酬であるとか、独立しているわけじゃない。

ポケットは1つのポケットなので、総ざらい見直そうと。

ですので、待遇改善をしながら、総人件費を落とすことはできると思います。

しかも、今税収が住民活動が活発になって増えている部分があるので、何パーセントかをしっかり明記しながら、待遇改善を測っていきたいと思っています。

議長／6番 松尾陽輔議員

松尾陽輔議員／

教育委員会の方々は、いろんな行事に参加していただいています。

いろいろな教育に関わるアドバイスもいただいています。

そういった中で、ぜひとも待遇の改善、見直すということで、市長の答弁もいただいた中で、ぜひともよろしくお願い申し上げながら、次の関連質問に入っていきますけども。

幼稚園の窓口の一体化について。

教育委員会事務局に、幼稚園、教育担当の配置を考えていただくことができないか、ということで。

子ども・子育て支援事業が2015年度から本格的にスタートいたします。

これは、子ども・子育て支援事業の目的は、認定こども園や幼稚園、保育所に共通の財政

を支援をおこなったり、小規模保育事業などを新たに国の交付対象にくわえ、取り組みを通じて、幼児教育や保育、地域・子育て支援などの量、質と共に充実させることが目的なのが、今回の子ども・子育て支援事業の本来の目的でございます。

そういった中で、今状況を見てみますと、私立幼稚園は教育委員会が所管。

支援センターですね。

ただ、市立幼稚園は、別の所が管轄。

以前、下水道の一体化ということで話させていただきましたが、幼稚園の所管を、市立は教育委員会の管轄、私立のほうは子ども未来課。

不都合がないのでしょうか。

今後、市立幼稚園と私立保育園との連携が、幼・保・小の連携という形。

教育という中で、一元管理の中で、いろんな一時保育の問題、保育情報の格差是正と、いろんな問題が出てきている中で、その中で子ども・子育て会議の設置を義務づけられて、子育て支援事業の中に、子ども・子育て会議の設置を一元管理おりますが、この市立幼稚園と私立幼稚園を、教育委員会で統制したほうがいいのか、あるいは市長部局で一元管理はかったほうがいいのか。今後、検討する余地がでてくるのではない。

私なりに教育行政の中で、関連的に今回、取り上げて見ましたが、これについて、ご見解をお尋ねしたいと思います。

議長／樋渡市長

樋渡市長／今、特にこれで例えば保護者の皆さんとか行政の中で、これが一元化できてないから問題だ、という話は全然きてないです。

だから、問題がきてないときに組織をいじるのは、僕はそこはどうかと思っていますので、もう少し見守りたい。

今度、子ども・子育て会議、これは賛成なので、これを見ながら、どうしても一元化したほうが良い、というのであれば、その必要があるだろう。

僕、全部一元化が良いとは思わないのですよ。

例えばいじめの問題が武雄市で多発したときに、教育委員会が、あまりにも事務が集中してたので、教育の外側の部分は子ども部に移管したんです。

するとどうなったかという、今まで教育委員会が忙しくて相手できなかったものが、子ども部の職員がいろいろなことを聞いて、ということになって。

親御さん達からすると、もう1つ行くとこが増えたとなるんですね。

ですので、一元化が全部良いか、といったらそんなことは。

首長の権限の一本化と同じところで、いろんなところがあって、そこが連携しながらするのが、総務関係ですね。

それも1つの在り方だと思います。

繰り返しますが、今度子育て会議をして、どうしても一元化したほうがいいという議論が出たら、それはよく議会と相談しながら、条例改正になるので、議会と相談して決めていきたいと思っております。

議長／6 番 松尾陽輔議員

松尾陽輔議員／一体化、一元化でメリット、デメリットが出るとありますが、子育て会議の中で十分に話あっていただきたいということで、最後の教育の中で、反転授業について伺います。

先ほど、冒頭に申したとおり、いろんな議員から関心の度合いがわかります。

私は先月の 21 日、武内小学校であった公開授業に行かせていただきました。

なんと北海道から来ていらっしゃる方も、見に来ておられました。

そういった中で、神戸新聞にも紹介をさせていただいて、全国からひっきりなしの、ぜひ視察に行きたいということで、殺到していますが。

教育、また授業の在り方が、こういう流れになるのではないかとということで、学習意欲の向上に効果ということで、新聞に出させていただきました。

そういった中で、なぜ反転授業を行うのか。

これからの見解は、特別支援学級に向けたプログラムの開発も、また公開授業のアンケートの結果は、今後の課題はということで、質問していますが、1 番の反転授業、今後の展開については、きのうからの答弁で確認しています。

要は、特別支援学級向けのプログラム開発を、ぜひとも検討していただきたいと。

一番、手をさしのべるべき子どもたちといいますが、色んな発達障がい、クラスに何人かいらっしゃるという状況で、子どもたちに、コンテンツというか、中身がわかりやすい中身を、まだ走り出したばかりでしょうけど、同時に、こういう形のふれあい学級、また支援学級の子どもたちへの支援を同時進行で考えていただきたい。

優しい教育づくり、市長も、来年度は教育行政に力をという中で、目の届きにくいといいますが、手をさしのべてやるべき子どもへの配慮もぜひ検討していただきたい。

そこのご見解をお尋ねします。

議長／浦郷教育長

浦郷教育部長／大変大事なことだと思います。

したがって推進協議会でも、特別支援学級にも、特別支援学校の先生に入っていて、協力して進めていきたいと思えます。

議長／6 番 松尾陽輔議員

松尾陽輔議員／全て、教育は平等ですから、ぜひとも積極的にそのへんは取り組みをよろしくお願ひしたいと思ひます。

私も、訪問させていただいて、いろいろな資料をいただきました。

資料の中で、本日の公開授業の研究会についてのアンケートということで、アンケート等もいろいろな形で子どもたちのアンケートなど取られたかとおもひますが、アンケートの結果で、どのような結果がでたのか、御答弁をよろしくお願ひします。

議長／代田教育監

代田教育監／ただいま質問にありました、11月21日に行われた研究授業の結果が、まずは、小学校5年生。

算数の授業。

こういったデジタルな結果が、一瞬にして分かるのが、タブレット端末による教育の良いところで、授業が終わったところで生徒がすぐによく分かった、大体わかった、あまりわからなかったと。

それぞれどんな感想か、先生がすぐにわかるというのもICT教育の利点かと思ひます。

算数の授業ですと、普段の授業よりはよくわかった、だいたいわかったという子どもたちがすごく多かったです。

実際の声としては、家で予習をしてくると、面積を求めるときの方法が頭に入っているの
で、学校で簡単にできた。

動画を見てできるので、簡単でした。

家で勉強して、学校でやるといういろいろなやり方がわかるので良いです。

そのまま子どもたちの文字ですが、こういう感想が聞けているということでは、子どもたちのやる気、理解度に効果があると考えています。

一方、6年生の理科の子どもたちの感想です。

同じように、よく勉強ができたとかありますが、やりがいがある。

話し合い活動が中心となるので、先生に教えてもらうだけでなく、答えを知らないものを友達同士で答えを知り合ったほうが、やりがいがあるってよかった、またやりたいです、というようなコメントもあります。

上のグラフを見ると、あまり分からなかったという子が1名います。

家で学習したけれど、問題が難しかったので、あまりわからなかった、という回答もあります。

実際、ICT教育の良いところは、こういう子どもたちを先生が把握できる。

全員がわかったかどうか、感覚でやるのではなくて、この子は分からなかったんだなと思
うと、予習のコンテンツの作り方などの問題があったわけで、一人ひとりに向き合う点で

いうと、子どもたちの評価はこういう形で出ています。

先生たちのアンケートがありました。

授業の子どもたちの積極的な姿勢に対しては、このようなかたちで感想を出しています。

児童は iPad の活用でより意欲的にできた。

学びあい活動は、自分なりの考えで参加することができていた。

さらによりよい授業づくりに活かすことができる可能性を感じたという、先生方からの評価をもらっています。

その一方で、打ち合わせ等に時間を取り、準備等の難しさを感じた。

予習の動画を初めてつくるがために時間がかかったなど、評価として出ています。

以上です。

議長／6 番 松尾陽輔議員

松尾陽輔議員／反転授業については、いろんな賛否の声が聞かれています。

子どもたちが実際にどう感じるかというのが一番大事です。

その中で、アンケート結果を聞かせていただいて、9割の子どもたちがよかったということで、ほっとしておりますが、よくわからなかった、無回答の子どももいたということで、その子たちに対するフォローといいますか、そこが大事な部分だと思いますので、その辺も全員を、同じレベルに引き上げながら、よりより活動をよろしく申し上げてお願いします。

そういう中で、佐賀新聞でしたか、今後の課題ということで、教材準備がいろんな形で課題がまだまだあるのではないかと、二極化も懸念されるという新聞報道がされていますが、今回の公開授業を通して、またアンケートを通しながら、今後の課題はあるのか、そういった課題を聞きながら、われわれ共通の認識をしながら、よりよい方向で教育行政に関わりたいと思いますが、その辺を具体的なお答えをよろしくお願いします。

議長／代田教育監

代田教育監／今後の課題に対しては、3つ課題があると認識しています。

先ほど答弁で申した通り、先生方が予習用のコンテンツのコントロールしないといけないということで、これが実多忙感につながらないようにしないといけないと考えています。

実際に現場では今、先生がコントロールし、作り込んでいるのは外部の企業や塾。

当然、負担がかからないように作っていますが、これがよりクオリティの高いものにするためにはどうするというのが、問題になってくると思います。

2番目は、先生の授業での役割が変わります。

つまり、ファシリテート。

子どもたちがどう話し合いをコントロールしていくかが、難しくなってきます。
従来の先生は教えることだけでしたが、教えたあと、子どもたちの反応に対して話し合いを盛り上げて、誘導したり、ときにはアドバイスしたりする。
今の先生方にはなかった能力、役割なので、そういった役割をサポートすることも必要になってくると思います。
3つ目は、二極化。
どうしても予習できない子どもの対応をどうするか。
これは、地域の支援など、そういったことも仰ぎながら、地域づくりで取り組みます。

議長／6番 松尾陽輔議員

松尾陽輔議員／今後、きのうの答弁であったが、各学校で説明会を開催していくと。
保護者の方も大いに参加されていると思いますが、いろんな保護者会の意見も聞いて、行われる部分には、検討できる部分は大いに検討して、よりよい活動をしてほしいと申し上げて、大きな2番目の災害対策基本法の改正を受けてとの質問に行きたいと思います。
ようは、要援護者の対する現状と課題、今後の具体的な対応について、質問をさせていただきながら、6月議会でも話をしましたが、今年の5月26日、佐賀県消防訓練が若木町で開催されて、被災地から避難所へ移動されています。
移動後に、若木小学校の体育館で、いろんな被災運営をどうしたらいいかという話し合いをされました。
あるいは、段ボールで簡易のベッドづくりもしました。
市長も激励に来ていただいて、いろんな声を聞きましたが、災害対策基本法の改正のポイントは災害時に自力で避難が厳しいお年寄りや障がい者等の災害時要援護者の名簿作成の義務づけする改正のポイントです。
今まで曖昧だった、個人情報保護法の取扱いが明確になり、そういった中で、現在、進行中だと思いますが、要援護者の名簿の整備状況はどうなっているのか、ちょっと確認させていただきます。
ご答弁をお願いします。

議長／山田くらし部長

山田くらし部長／災害時要援護者の登録ですが、現在、2856人を登録し、今年度新たに調査をしながら、452人に登録したので、現在、入力作業をしています。

議長／6番 松尾陽輔議員

松尾陽輔議員／2856 人、追加で 452 人ですか。

例えば、妊婦の方、いろんな 1 人では避難できない方、いろんな病気を持った方、障がいを持った方、どこまで要援護者として 2856 人を対象として、体制ととのえているのか。対象者をどこまでしぼりこんで、対応されているのか、要援護者はどういう方々を対象とされて登録をされているのか。
いかがでしょうか。

議長／山田くらし部長

山田くらし部長／要援護者の対象者は、65 歳以上の高齢者、単身、65 歳だけの世帯、要介護認定を受けている方、身体障がい者の 1、2 級、療育手帳の A、精神保健福祉手帳の 1、2 級を受けている方、難病患者の方とされています。
これ以外の方も、支援が必要と判断をして申請をしていただければ、登録をしています。

議長／6 番 松尾陽輔議員

松尾陽輔議員／ぜひとも、自力で避難できない方がいろんな形でいると思いますが掌握していただいて、取り組んでいただきたいと思います。そういった情報登録して、あと、情報をどこに提出されていくのは、1 番大事なところですね。
掌握しても、どこに誰がいるのか現場までおりてこなかったのが現実です。
そこが改正のポイントである個人情報の取扱いがあいまいな部分があったのですが、どこまで流して良いのか、情報提供して良いのかの制約があったのですから。
ただ、制約が垣根がとれたので、情報の提供先が今、現在、どこまで掌握された要援護者に対しての落とされる計画なのか、どこまで情報提供を予定されているのか、消防団、あるいは、民生員の方、公民館は地域では情報発信拠点なので、そういった中で、どこまで情報提供される計画なのか、ご答弁をお願いします。

議長／山田くらし部長

山田くらし部長／災害時要援護者の名簿については、事前と災害時と分けられます。
災害時は本人の同意なしで情報提供するとなっているので、問題にならないと思いますが、平常時は本人の同意が必要なので、現在におきましては、民生員や区長さんとかに情報を提供しています。
今回、消防機関、社協、そういうところにも情報を渡すので、そのような取り扱いをしていきたいと思っています。

議長／6 番 松尾陽輔議員

松尾陽輔議員／個人情報なので、配慮が当然必要な部分です。

もしよければ公民館に、という話があれば、若干、その辺の対応は可能なのか情報提供をしてほしいと、話が地域からあればその対応が可能か確認をしますが、いかがでしょうか。

議長／山田くらし部長

山田くらし部長／公民館は市の機関となっていますので、必要があれば出します。

議長／6 番 松尾陽輔議員

松尾陽輔議員／ぜひともよろしく。

ただ、条件としては個人情報なので、厳重に注意をお願いします。

そういった中で、具体的な要援護者の訓練が必要でないかということで、先ほど、5月に若木町で防災訓練が大々的に行われたが、そういった中で、1人で自力で避難できない方は、戸別計画というか、戸別管理を名簿立てはどうしても災害時の対応にはいろんな困難な、こういうものが必要であったと、災害があったときには遅いわけですから、事前にこういう方にはこういう対応が必要だと、個別計画がぜひ必要だと。

そういった中で、そういう方々、要援護者を対象とした訓練もぜひ、今一度武雄市、地域を区切ってでも結構ですので、1回、そのような訓練を実施すれば、課題が見えてくると思いますが、具体的な、要援護者に対する訓練実施が必要だと思いますが、計画があれば、教えていただきながら、ご見解をお尋ねします。

いかがでしょうか。

議長／山田くらし部長

山田くらし部長／災害時の訓練につきましては、今まで、災害時要援護者を対象にした、例えば車いすにのって避難とかをやっていますが。

今おっしゃったように、個々で対応が違うので、その変を十分に必要だと思います。

今回の NPO 法人の支援を受けまして、武雄市のほうで、シンポジウムと避難訓練を実施するように話がきているところです。

民生員さんなどの区長さんなどの協力を得ながら、来年の3月というところで、準備しているところです。

議長／6 番 松尾陽輔議員

松尾陽輔議員／ぜひとも、自力で非難できないという方ですから、いろんな形でのサポートが必要なのですから、ぜひとも訓練を通じて、個別計画というか、個別対応の確認をぜひともよろしくお願い申し上げながら、最後のまちづくりについて、質問をしたいと思います。

では、新幹線の行方は、ということでフリーゲージの導入課題について、改めて話をさせていただきます。

2つめは、健康マイレージとこころの温度計。

最後に、周辺部の活性化と地域力の話をします。

新幹線、フル規格へと非常に高まっております。

また、沿線立ち上げもしていただいたかと思いますが、九州新幹線、西九州ルート、今一度確認してもらおうと、博多駅から新鳥栖駅は、新幹線、鹿児島ルートを活用。

また、新鳥栖駅から武雄温泉までは外来線を利用。

武雄温泉から長崎駅までは、新幹線の新線整備と計画が進んでいると思います。

要は、鹿児島ルートであるわけですから、新鳥栖から武雄温泉まで今の沿線を利用した複線でフリーゲージで来ると。

武雄温泉から長崎駅までは、整備でトンネル工事も着工されているところですが、そういった中で、フル規格が、冒頭にいったように非常に機運が高まっています。

そうなった理由は、時間の短縮。

また、福岡で乗り換えをせずに大阪まで直行できる。

20、30年後の交通手段を見据えたときに、子どもたちに説明のできる整備を選択すべきではないかと、私も改めて感じました。

また、安全性の確保にちょっと不安があったものですから。

初めて新幹線の問題に質問したわけですが、先月5日、鳴瀬分道で踏切事故がありましたね。

たまたま、私遭遇したわけですよ。

何十台も、何でこんなに混んでる、救急車ば来るしということで。

武雄自動車学校の入り口の踏切ですよ。

新幹線が通ることですね。

これが、鳴瀬分道踏切です。

大型のダンプが行き来するわけですね。

ここで、先月5日に事故があったわけですよ。

大事故につながらなかったのが幸いといえますか。

そういった中で、新幹線、フル規格。

先ほど申し上げましたように時間短縮等がある中で、安全性の確保が第一と考える中で、踏切事故が、今多発しております。

そういった中で、1年間でどのくらいの踏切事故が起きいるのかどうか、確認をしたいんですが、ご答弁をお願いします。

議長／北川営業部理事

北川営業部長理事／新鳥栖から武雄温泉間の踏切事故ということですが、平成24年度に1件、牛津、山内間で起こっています。

ちなみに、平成25年度については、11月5日に武雄市で、それから12月にも神崎市で踏切事故が起こっていて、現時点で、25年度は2件でございます。

議長／6番 松尾陽輔議員

松尾陽輔議員／あちこちで踏切事故が実際起きています。

そういった中で、新幹線は、速くて安心で安全ということですが、安全生活第一です。

そういった中で、実際私も、踏切事故に遭遇した中で、安全が守られるのかどうか、疑問を嘆かざるを得なかったということです。

ぜひとも、こういった踏切事故等を避けるためにも、ぜひとも今回フル規格の旗揚げを市長にお願いしたいと。

市長もいろいろな形で、働きかけをあちこちに行っているかと思いますが、われわれ…すみません、ちょっと飛ばさせていただきますが。

われわれも10月10日に衆参両議員開館(?)に、新幹線と街づくり新幹線と、街づくり特別委員会でも末藤委員長を筆頭に、進上(?)にいてまいりました。

安全面でのフル企画導入と建設負担金の軽減を、要望をしてきました。

要は議員会館(?)での要望、心情の風景(?)ですよ。

そういった中でぜひとも、フル規格導入に向けて、市長の思い決意を。

また、フル規格導入に向けた気運を高めるためにも、看板設置等で旗揚げをしながら気運を高めていくべきだと私も思っていますが、市長の思いを、今一度確認させていただきます。

議長／樋渡市長

市長／さっきの要望先をいったところが間違っているんじゃないと思いますが。

あのですね、非常に大事な話で、フル規格といたら、どことはいいませんが、あちこちから言うなって。

お前が言うのと新聞に載るし、収集つかなくなるし、新幹線が遅れるかもしれないというふうに、脅されています。

そうになると、言いたくなるんですね。

やっぱりね、中途半端なフリーゲージを作ってもだめですよ。

しかも、これ武雄市だけの問題じゃなくて、これをやられることによって、沿線自治体のほとんどの首長が、今のままのフリーゲージは反対です。

進めば進むほど、反対運動が起きかねないという状況にあるんです。

私はフル規格、というのは絶対に譲れない点です。

多少、オリンピックに間に合わない。

あるいはオリンピックの2年後。

少しずれただけでも、私は中途半端なフリーゲージよりもフル規格は政治的心情です。

どんなにいわれても、言い続けます。

その中で、今、国のシステムがおかしいです。

今のまま、西武新幹線(?)だって、ざっくりいって、3分の1が地元負担です。

フル規格にした場合には、県には300億弱かな。

280億。

750億か。

750億が県の負担に。

すると、貧乏な佐賀県が、サバケン(?)になってしまうわけです。

無理です。

何を言いたいかというと、例えば、国道が走っているじゃないですか。

それ、我々負担してます？国道。

新幹線、国策であるにもかかわらず、地元の負担を求めるのは、地元を馬鹿にした話だと思います。

田舎を馬鹿にした話だと思います。

これこそ、ほとんどの観光客のみなさんは、佐賀県外の方々です。

国のハイウェイと一緒にじゃないですか。

僕は見直しを強く求めたいと思います。

そこで大事なのは、自民党、公明党なんですよ。

ここがしっかりすると、どういうことが起きるかということ、今、財務省にみんな顔をうかがって、財務省からわっぱはめられて、逃げ帰ってきているんですよ。

なんでそこは、これこそは地元の国会議員の皆さんたちの働く場だと思いますね。

評価というか、それで、僕は応援を決めたいと思います。

どう気運を高めるか。

システムを変更する。

やっぱり国策として、国が100%出すということを、自民党、公明党がしっかり言う。

それが1つ。

その2つ目に、それがなった場合は、我々は実現可能性が出るわけだから、それで我々が先頭にたって、それを成し遂げるべく動くことになります。

今のままだったら、絶対に禍根を残します。

目に見えています。

こんな中途半端な新幹線は、鈍幹線です。

議長／6番 松尾陽輔議員

松尾陽輔議員／全額負担ということで、是非ともフル規格の導入をよろしくお願いします。
国交大臣は、公明党の大臣ですから、強くわれわれも訴えたいと思いますし。

陳情のときにも、与党の整備新幹線建設推進プロジェクトチームの座標であるであるイノウエにも陳情書を手わたしてきました。

また、トウヤマ議員、エダ議員等にも、自民党や公明党議員の方にも要望書を出しておりますから、市長の思いも確認しましたから、再度、フル規格の導入を20年、30年の子どもたちに説明できる選択を、決断をしていきたいと思っています。

今後ともよろしくお願いしながら、次の…。

すみませんね。

次の質問に入らせていただきます。

健康マイレージと心の体温計の話をさせていただきます。

医療費、介護費が今増加傾向にあると。

一般検診、またがん検診の無料クーポンあたりを出しているけれど、なかなか受診率が伸び悩んでいるということで、対策として、今、いろんなポイント制が広まっています。

例えば、追加増(?)もポイント制で、あるいは、家事で買い物のときもカードをお持ちですかということで、いろんなポイント制が普及していますが、ぜひともそういう対策で、健康づくりにもポイント制を導入できないかということで、提案をさせていただきたいと思っておりますけども、先ほど申し上げましたように医療費、介護費の増加、あるいは一般検診、一般がん検診等の受診率の解消として、健康マイレージの提案をさせていただきます。

具体的にはポイントを溜めながら、楽しみながら、医療費、介護費の抑制につながるのが健康マイレージ事業です。

若木では、毎朝5時から6時に早起きして、70代から80代の高齢者が方々が、ゲートボールに参加して、何とか健康でということで、参加されて、健康作りに励んでいます。

ぜひとも、こういった形で先ほど申し上げましたように、ポイント制が健康作りに活用できるようにいただきたいということで、健康マイレージ事業の提案を市長させていただけますけども、そういう形で、ご見解をよろしくお願いします。

議長／樋渡市長

樋渡市長／答弁申し上げます。

本人の自覚の問題だと思います。

マイレージやっても、たぶん自分が、私もそうですが、体が重くなったなと思ったのが3年前で、それまでは、運動は選挙運動しかしてなくて、最初は40mしか走れなかったですよ。

ですが、今はフルマラソンが走れるようになった。

一旦体がむくみがちになったというのと、体が重いと自覚して、走ってやったら楽しくなって、走れるようになったんですね。

本人の自覚の問題だと思います。

ただし、マイレージを批判しているわけではなくて、ことごとく失敗しているかというところだけでとどまるからだめなんです。

例えば、セブンイレブンのナナコさんだったり、TポイントのTカードだったり、JALのマイルだったり、本物のポイントと連動させると、それは進むと思うんですね。

ですので、そういう制度設計があると思います。

いまこの状態でやっても、難しいと思うので、魅力あるプランも作る必要があると思うので、ここは我々に引き取らせていただきたいと思います。

いろんな構築であつたりというふうにしたいと。

それともう1つは、今の問題は試案撤回(?)なんですね。

ふつうの体育館だったら、市民が自分たちが行きたいときに言って、アスレチックをするとか、トレーニングをするっていうふうになんか今、なっていないじゃないですか。

ですので、これは僕は1つの作業は***。

ですので、これは山形の鶴岡市でしたかね、行ったときに朝ジョギングしていて、人が集まっているんですよ。

何で集まっているのかと思ったら、体育館があつて、ゲートボール場があつて、野球場があつて、テニスコートがあつてと1カ所に全部あるんです。

朝、出勤前の方々とか、いろんな高齢の方がこぞって集まっているんです。

これなんだと思ったんです。

その体育館に行ったら、どういうものがあつたかというところ、健康なんかポイントというのがあつて、みんな登録してからやっていくんです。

だから、マイレージだけやっても駄目で。

例えば、体育館だったり、運動施設のメニューを考えた上でこれをやりたいと思います。

TポイントのTは、武雄のTです。

これは冗談ですけども、申し上げたいと思います。

議長／6番 松尾陽輔議員

松尾陽輔議員／市長のおっしゃる通り、いろんなカードと連携して、使い勝手がいいとか、

楽しみながら、健康作りに活用ということで、普及していくかと思います。

今一度、たくさん検討をさせていただいて、魅力ある健康マイレージ事業の制度設計を今一度検討していただきたいと思っております。

それでは、最後になる前に、心の体温計。

みなさんこういう絵を、見たことがありますかね。

心の体温計。

あられますか。

今、全国で、40人に1人はいろんなストレスを持っていると言われております。

これは、いろんな自治体でも、ホームページに記載されています。

健康状態、人間関係、環境などいろんな質問項目があり、ストレスの度合いなど、落ち込み度がわかります。

金魚の姿とか、猫の出方とか。

猫のが出てくると非常に健康に悪いとか、金魚が黒くなったりとか。

画面で、状況がわかるという形の中での、心の体温計ということで載っております。

ぜひとも、全国でも1番アクセスが多い武雄市のホームページ。

またはフェイスブック等にこれを乗せていただければ、市民の皆さまも、ちょっとした機会に、こういうことをクリックしながら、きょうの1日はこうであったとか、また、今の健康状態はとか、また、いろんなストレス先ほど申し上げましたように、40人に1人は、何らかのストレスを持っているということで、こういう形で、心の体温計ということで、ご提案をさせていただきたいと思いますが、いかかでしょうか。

議長／樋渡市長

樋渡市長／これについては答弁書にやると書いてあるんですが、そうかなと思います。

まず、議員の皆さんたち、やってください。

1番ストレスに無縁の方々が揃っていますけども、1回、やってみて、いけると議員の皆さんたちがご判断していただいたときにやるということだと思いますね。

少なくとも私自身の判断材料がこれ予算にもなんにもならん話ですので、実際にデモ版をお借りして、議員のみなさんにあわないかもしれないがやっていただいて、うちの職員にも何人かやって、その上で判断して、これ、効果があれば、すぐに予算化していきます。

議長／6番 松尾陽輔議員

松尾陽輔議員／私は効果があったので、よろしく願いしながら、最後の質問です。

周辺部の活性化と地域力と話しましたが、若木町が湖水まつりが中止になりました。

25 年間続いた湖水祭りのかわりに、地域ふれあい祭りをしました。

あるいは、地域の活性化に向けた若木町で組織改革委員会(?)、また、イベント委員会、人口減対策委員会まで立ち上げをしていただきました。

そういった中で、若木のふれあい祭りの開催の状況です。

フラダンス、太鼓ありのいろんな形で大いに盛り上がったわけですが、ここに書いてあるように、地域活性化は地域力で決まると。

要は、行政指導ではなかなか要望等、依存度が高くなるのでそういった中で、いろんな形で地域力を今以上に発信を、また地域力つけていただきたいということですけども、その中で、若干地域には高齢化で非常に厳しい環境にあるわけで、行政としても良きサポート役としての支援課の創設はどうかということで、まちづくりとして、私からの提案、要望になってきたが、地域支援課といってその形で立ち上げれば、いろんな周辺部の活性化につながるのではないかと。

特に、高齢化による人員不足も大きな悩みです。

先ほどの冒頭にもありましたように、地域が発信も地域力が合って活性化ですから。

そこが、先ほど申し上げましたように行政主体では対応が難しくなってきましたから、地域力を出すためにも、サポート役として地域支援課の創設をご見解をお尋ねして、質問を終わりたいと思います。

議長／樋渡市長。

樋渡市長／私は地域支援課をつくってもうまくいかないと思います。

というのは、武雄市役所全体が地域園(?)なんですよ。

これをつくってもジョークにほかならないと思うんです。

7 年半たって、ものすごく僕がわかったのは、公民館です。

かつ、公民館が朝日公民館だとすると、今オープンしていますが、ものすごく地域に根付いている。

若木はミヤザキさんがいて、根付いている。

ほかにもそうですが、こうなったときに公民館の機能を拡充するのが近道だと思っていますので、一辺に、全公民館の機能の拡充は無理なので、公務員職員も考えながら、今実際にパンクしているところも多いので、何を言いたいかというとモデルの公民館を作って、そこで、実際上手くいくとなったらそれを増やしていくというそういう運びです。

地域支援課も公民館を人的に予算を拡充することによって、きめ細かい、サポート役としての支援をしていきたいと思っています。

これについても、私の公約で掲げたいと思っていますので、徐々に深く、浸透していきたいというふうに思っています。

議長／6番 松尾陽輔議員

松尾陽輔議員／これで、一般質問おわります。
ありがとうございます。

議長／以上で、6番 松尾陽輔議員の質問を終了させていただきます。